

# 船舶事故調査報告書

平成29年10月18日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成29年4月30日 09時25分ごろ
発生場所	香川県小豆島町地蔵埼北西方沖 地蔵埼灯台から真方位333° 1.8海里付近 (概位 北緯34° 26.5′ 東経134° 13.1′)
事故の概要	プレジャーボート松寿丸は、南西進中、また、プレジャーボートちぐさ丸は、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成29年5月9日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート 松寿丸、3.1トン（長さ8.68m） 280-27635和歌山、個人所有 B プレジャーボート ちぐさ丸、5トン未満（長さ5.58m） 280-34570香川、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型
負傷者	軽傷 1人（船長B）
損傷	A 船首部外板及び船尾部船底に擦過傷、プロペラ翼に曲損 B 左舷中央部外板及び操舵スタンド等に破損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 1～2、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、友人2人を乗せ、約15ノットの対地速力で自動操舵により南西進していた。 A 船は、船長Aが、操縦席に腰を掛け、周囲に他船が見当たらなかったのもので自動操舵の調整を行いながら航行中、前方至近にB 船の乗組員が手を振るのを認めて機関を後進にかけたが、B 船と衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、船首を東方に向けて船外機を停止し、漂流していた。 船長Bは、船尾に置いたタックルボックス（釣り具入れ）に腰を掛けて釣りを行っていたところ、左舷方にA 船を認めたが、これまで他船が漂流中のB 船を避けていたので、A 船も避けてくれるものと思い、A 船から目を離して釣りを続けた。 B 船は、船長Bが、再度A 船の方を見たところ、左舷方至近となったことを認め、立ち上がって両手を振ったが、A 船と衝突した。
分析	A 船は、船長Aが、自動操舵の調整を行っていて、船首方の見張りを適切に行っていなかったことから、前路で漂流中のB 船に気付くのが遅れ、B 船と衝突したものと考えられる。

	<p>B 船は、船長 B が、A 船を認めた際、これまで他船が漂泊中の B 船を避けていたので、A 船も避けてくれるものと思い、A 船に対する見張りを適切に行っていなかったことから、A 船が左舷方至近となっていることに気付かず、A 船と衝突したものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、A 船が南西進中、B 船が漂泊中、船長 A 及び船長 B が共に見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
<b>参考</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 常時適切な見張りを行うこと。</li> </ul>